

Walk Across The Sea to Chirin-ga Shima



Chirin-ga Shima is an uninhabited island just inside the entrance to Kinko bay near National Park Resort IBUSUKI (Kyuka-mura IBUSUKI / 休暇村指宿).

An 800m long sandbar appears at low tide during the flood tide or the middle tide from March to October.

The sandbar appears as a little winding path in the sea, and you can cross to the island along this path.

It gives you a special feeling to walk across the sandbar from the Ibusuki side to the island. It takes about 20 minutes to the island. The longest time the sandbar appears is for four hours.

Matchmaking Island

The island is known as a matchmaking island. This place was used as a shooting location for a TV drama, and many couples visit the island. There are several things for these people there.



♥ Chirin's Heart

Two different sized objects are placed on the Ibusuki shore. Depending on the angle to see these objects, they look heart-shaped. It is a good place to take some pictures against the background of Chirin-ga Shima.

♥ Chi-kai (Chi貝)

Tie a shell on which you write your wish on a chain on the "Chikai-no Oka (誓貝の丘) at the entrance of the sandbar.

Shells (200 yen each) are sold at Ibusuki City Tourist Information Center at JR Ibusuki Station, National Park Resort IBUSUKI (Kyuka-mura IBUSUKI / 休暇村指宿).

The shells which are tied on the chain will be dedicated to Ryugu Shrine (龍宮神社) in Ibusuki after a while.

♥ Chirin's BELL

Chirin's BELL is located on the hill of Chirin-ga Shima. It is said if you ring the bell praying for happiness, your wish will be fulfilled. The view from this place is great, too.



Walking Across The Sea

Walking across the sea is really an exciting experience.

But, it is still the sea, so you need to be careful. If anything happened, a fun day could be turned into a terrible day.

! Please do not try to walk across to the island in bad weather.

! The path disappears very quickly once the tide starts to come in so check the appearance time of the path and give yourself plenty of time to cross back.

! The tide current is very fast around the sandbar, so if the sandbar isn't visible, please do not walk across.

! Some blue-ringed octopuses (Hyomon-dako / ヒョウモンダコ) have been seen on the shores in Ibusuki city. They are about 5cm-10cm long and they have brown patches like panthers'. When they are agitated, iridescent blue rings or clumps of rings appear.

If you are bitten by one of them you might not feel it directly; however, it injects a venom powerful enough to kill a human. The venom causes respiratory arrest. Do not touch them. They live in shallow water and coastal rocks.

See inside for The
Sandbar Appearance
Time!

Walk Across The Sea to Chirin-ga Shima P1 ~ P2

災害と多文化共生 ~ P3

Kagoshima Culture Craft Village P4

Napoli Festival in Kagoshima ~ Feel The Wind And Light ~ P4

24 Divisions of The Solar Year And The Standard Days Signifying The Changing of The Season P5

Upcoming Events P6



Spring, 2015

Sandbar Appearance Time (predicted) And The Amount of Time Visible

May 2015

Date		Sandbar Appearance Time	Amount of Time
5/1	Fri	10:25 ~ 13:20	2h55m
5/2	Sat	10:35 ~ 14:10	3h35m
5/3	Sun	10:55 ~ 14:55	4h
5/4	Mon	11:15 ~ 15:35	4h20m
5/5	Tue	11:45 ~ 16:10	4h25m
5/6	Wed	12:15 ~ 16:50	4h35m
5/7	Thu	12:50 ~ 17:25	4h35m
5/8	Fri	13:35 ~ 18:05	4h30m
5/9	Sat	14:25 ~ 18:40	4h15m
5/10	Sun	15:30 ~ 19:20	3h50m
5/11	Mon	*The tidal range is	×
5/12	Tue	small, so the sandbar	×
5/13	Wed	doesn't appear.	×
5/14	Thu	9:10 ~ 11:20	2h10m
5/15	Fri	9:25 ~ 12:45	3h20m
5/16	Sat	9:50 ~ 13:50	4h
5/17	Sun	10:20 ~ 14:50	4h30m
5/18	Mon	10:55 ~ 15:40	4h45m
5/19	Tue	11:30 ~ 16:25	4h55m
5/20	Wed	12:15 ~ 17:00	4h45m
5/21	Thu	13:00 ~ 17:35	4h35m
5/22	Fri	13:50 ~ 18:05	4h15m
5/23	Sat	14:45 ~ 18:30	3h45m
5/24	Sun	15:55 ~ 18:45	2h50m
5/25	Mon	*The tidal range is	×
5/26	Tue	small, so the sandbar	×
5/27	Wed	doesn't appear.	×
5/28	Thu		×
5/29	Fri	9:50 ~ 11:25	1h35m
5/30	Sat	9:55 ~ 12:40	2h45m
5/31	Sun	10:05 ~ 13:40	3h35m

Date		Sandbar Appearance Time	Amount of Time
6/1	Mon	10:25 ~ 14:25	4h
6/2	Tue	10:50 ~ 15:10	4h20m
6/3	Wed	11:20 ~ 15:55	4h35m
6/4	Thu	11:55 ~ 16:35	4h40m
6/5	Fri	12:40 ~ 17:15	4h35m
6/6	Sat	13:30 ~ 17:55	4h25m
6/7	Sun	14:25 ~ 18:30	4h5m
6/8	Mon	15:30 ~ 19:00	3h30m
6/9	Tue	*The tidal range is	×
6/10	Wed	small, so the sandbar	×
6/11	Thu	doesn't appear.	×
6/12	Fri	8:35 ~ 10:55	2h20m
6/13	Sat	9:05 ~ 12:25	3h20m
6/14	Sun	9:30 ~ 13:35	4h5m
6/15	Mon	10:05 ~ 14:30	4h25m
6/16	Tue	10:45 ~ 15:15	4h30m
6/17	Wed	11:25 ~ 16:00	4h35m
6/18	Thu	12:10 ~ 16:35	4h25m
6/19	Fri	12:50 ~ 17:05	4h15m
6/20	Sat	13:40 ~ 17:30	3h50m
6/21	Sun	14:30 ~ 17:50	3h20m
6/22	Mon	15:30 ~ 18:00	2h30m
6/23	Tue	16:45 ~ 18:10	1h25m
6/24	Wed	*The tidal range is	×
6/25	Thu	small, so the sandbar	×
6/26	Fri	doesn't appear.	×
6/27	Sat		×
6/28	Sun	9:30 ~ 11:50	2h20m
6/29	Mon	9:45 ~ 13:00	3h15m
6/30	Tue	10:05 ~ 13:55	3h50m

知林ヶ島は休暇村指宿のすぐそば、錦江湾の入り口付近に位置する周囲約3kmの無人島です3月から10月の大潮や中潮の干潮時には約800メートルの砂州が現れます。海の中に一本、少し曲がりくねった道が通るわけです。この道を歩いて知林ヶ島に渡ることができます。休暇村指宿から知林ヶ島に渡るとき、何とも言えない不思議な感じがします。だって、海のただ中を歩いて渡るわけですから。渡るのにかかる時間は片道20分ほど。砂州が出現し続けるのは最長で4時間ほど。

縁結びの島
知林ヶ島は陸地と「つながる」ことから、縁結びの島としても有名です。ドラマのロケ地にもなったことから、カップルで訪れる人も多いのですが、カップル向けの楽しいしかけもあります。

♥Chirin's ハート
二つのサイズの違うオブジェクトが、知林ヶ島を眺められる指宿側の岸に設置してあります。このオブジェ、見る角度を変えるとハート形に見える場所が。知林ヶ島をバックに、記念写真にぴったりのスポット。

♥Chi貝
指宿市総合観光案内所、休暇村指宿、月見荘で200円で購入できるChi貝。絵馬にみたてたこの貝に願い事を書いて誓貝（ちかい）の丘のくすりに結びます。Chi貝は定期的に龍宮神社に奉納されるそう。

♥Chirin's BELL
知林ヶ島の高台に据えられたベル。幸せを願ってベルを鳴らすと願いが叶う？

海を歩く
海の中に出現した道を歩く。本当にワクワクする経験です。でも、海であることに変わりはないので油断は禁物です。悪天候など、無理をしてはせっかくの楽しい日も台無し。天候の穏やかな日を選んでください。また、砂州が再び波に消されてなくなるまでの時間は驚くほど早いです。あらかじめ時間を確認して、余裕をもって引き返してください。さらに、砂州が現れる付近は潮流がとても速いです。砂州の両側は深いとも聞いています。砂州が出現していないときにわたるのはとても危険ですので、渡らないでくださいね。

また、強力な神経毒を持つヒョウモンダコが、指宿市内の海岸で数回目撃されているそうです。全長5〜10センチの小さなタコで、ヒョウ柄が特徴。このヒョウ柄は身の危険を感じたときの方がくっきりとわかりやすいそうです。噛まれても痛みを感じないらしいですが、その際注入される毒はフグと同じ猛毒。呼吸困難等に陥り死に至る危険があるので、絶対に触らないようにしてください。このタコは普段は浅瀬に生息し、岩場と同化して目立たないようです。

*この記事は当協議会のウェブサイト「KAGOSHIMA Visitors' GUIDE」からの引用です。
*This article is quoted from our web site "KAGOSHIMA Visitors' GUIDE".

KIC-update.com

検索

災害と多文化共生

I 災害時の外国人

去る2月19日実施された鹿児島市国際交流財団の事業実施委員会では、少し趣向を変えて講演会を実施されました。ここで話された災害時の外国人支援は鹿児島ではまだ確立されていないのではないかと思います。それでも、個人レベルでできることがあるかもしれない。あるいは、一人でも多くの人に知ってもらふことで、変わって来ることがあるかもしれない。そう思ったので、シェアしたいと思います。

講演会は、題して「**災害時から見る多文化共生**」。講師は多文化共生マネージャー全国協議会理事の柴垣禎氏。

外国人が災害時の「要援護者」だと知る人も少なくないと思います。今回の講演では「災害時における外国人の立場」、「災害時の外国人の支援」、そして、「地域における多文化共生」と3つの視点から分かりやすくお話しいただきました。

1. 災害時における外国人の立場

「外国人は災害時の要援護者」となっていますが、なぜだかご存知ですか？ 災害時、外国人は大変困難な状況に立たされるからだそうです。ここでは大きく二つに分けてその理由を話されました。

理由① ストック情報が日本人と異なる



まず、第一に知っておかなければならないのは、日本の常識は世界の常識ではないということ。日本人は、地震がどのようなものか、また、地震発生時にはどのように避難すればよいかを子どものころから避難訓練等で繰り返し学びます。ところが、世界的にみると、地震が起こる地域をいうのはごく一部。世界には、生まれてから死ぬまで地震を体験しない

人たちが実に大勢いるのです。日本に観光で来た外国人、日本に住んでいる外国人にしても、一度も地震を体験していないという人は大勢います。そのような人たちが地震を体験したらどうなるでしょう？

1995年に起こった阪神・淡路大震災は明け方の5時47分ごろ発生しました。話によると、大きなドーンという衝撃がまずあったとか。そして、夜が明けて戸外を見渡すと、倒壊した家やビル。複数箇所から上がる煙……。迷彩色の制服を着た人々が、がれきの下敷きになった人々を助け出している。もちろん、自衛隊の救助作業です。しかし、地震を知らない外国人が見たらこの光景は何に見えるのでしょうか？

戦争。クーデター。爆発。テロ。ミサイル攻撃。そう考えても不思議ではありません。

理由② フロー情報（災害時の情報）が届かない

災害が起きて、自分の居住区域が危険だと判断されれば、避難所に行くことになります。日本人は、避難所がどこなのか、大概の人は分かっているのではないのでしょうか？ はっきり確認していなくても、近所の学校の体育館だったり、コミュニティセンターだったりという認識はあると思います。

しかし、外国人にはこのような情報が届いていないことが多い。たとえば偶然避難所の前を通りかかることがあっても、「避難所」という標記が日本語の漢字で書かれているため気づかないことも。実際の震災の際、この辺りに避難所があると聞きつけてきた外国人も、「避難所」の表記を理解できないためにたどり着けなかったり、建物の前に来ても、本当に避難所なのかどうか分からず、入っていいかどうかの判断がつかないため、結局、車の中で寝泊まりしたという事実もあるそうです。

さらに、災害時の日本語が日ごろ使われている日本語と異なるという点。今回のお話の中で、私自身改めて驚いたのですが、災害時の情報伝達や掲示に使われる言葉は難解です。「給水制限」「罹災証明書」等は、ある程度、日本語で会話ができる人にとっても、日常で使う言葉ではないので、分かりにくいようです。

さらに、同じ音なのにまったく逆になってしまう言葉もあります。「ふつう」と言われたら、当たり前とかいつも通りと理解しますが、災害時使われる「ふつう」は逆。「九州自動車道はふつうです」「JR鹿児島本線はふつうです」。災害時は、私たちはこの言葉を「不通」に置き換えることができますが、そういう状況を体験していなかったら、「ふつう」と聞いて「普通」と解釈するのは当然と言えるのではないのでしょうか？ 実際に「〇〇線はふつう」と聞いた外国人が、高速道路のインターチェンジや駅まで行って初めて通行できない、列車が止まっている、と知ったという例があります。

以上の点から、外国人は災害時、適切な情報を伝える必要があったり、情報内容の伝達に工夫が必要な要援護者というわけです。



II 災害時の外国人支援

それでは、災害時の外国人には具体的にどのような支援が必要なのでしょう。多文化共生マネージャー全国協議会理事の柴垣禎氏らが過去の災害時にどのような外国人支援をしたか、どのようなニーズがあるのかについて書きたいと思います。

災害が起こったら災害対策本部が設置され、被災情報等が全国に届きます。しかし、それらの情報は日本語。しかも、災害時のみにしか使われない言葉や難解な言葉など、外国人には非常にわかりにくい、理解できないということは前述の通りです。そこで、柴垣氏は災害時多言語支援センターを設置し、それぞれの国の言葉に翻訳して、情報を伝えるという活動をしているそうです。

目的は、安心してもらうための情報提供。そこで気を付けていることは、飽くまでも情報提供であり、外国人だから困っていることに対するサポートに徹するという。なかには、離婚の相談などが持ち込まれることもあるそうですが、被災時の情報は一刻を争うものもあり、そうでなくてもできるだけ早く多くの人に伝えたい。だから、日常の生活相談とは一線を引くことが大切。

また、災害時多言語支援センターでは、避難所を巡回し、外国人の状況把握に努め、それぞれのニーズを理解し、必要な情報を届けています。外国人に必要な情報も、急を要するものとそうでないものに分け、急を要するものは災害時多言語支援センターが翻訳。迅速に情報を伝えます。そうでないものは、外部に翻訳を依頼します。

翻訳作業では、まず易しい日本語のみの原稿を作るのだそうです。その際、いらない情報を引き、意味が通じるように主語や目的語などの必要な言葉を増やします。文章は短くはつきり、そして、一文には一つの情報のみを入れるようにするそうです。

非常時に適切な情報が届かないというのはどんなに不安で不便なことでしょう。家族や友人がいる地域の被災状況、避難所でのお風呂やゴミ捨て、支援物資の配給に関する情報、道路情報等、どれもとても大切な情報です。外国人に限らず、すべての人に必要な情報がきちんと届くシステム作りは大きな課題だと思います。また、そういうシステムが確立されていなくても、何が必要か、どうすれば伝えられるかが分かっていたら、そこにいる人がお手伝いできるかもしれません。

III 地域における多文化共生

多文化共生」と言う言葉はよく耳にするようになりましたが、実際、「共生」は実現しているのでしょうか？ 「共生」とは、「多種多様な人々が対等な立場で互いを尊重し、支え合って共に生きていく社会」と定義できそうです。

ここでの「共生」は「多文化共生」がテーマです。日本人には、「日本人」と「外国人」という二つのカテゴリーしか存在しないのではないかと、と知合いの外国人によく言われます。「日本人はこうだけど、外国人はこうだよ」といった考え方を知らず知らずのうちにしていないのでしょうか？

しかし、「外国人」も様々で、実に多様な価値観、多様な生活様式、多様な年齢、多様な文化、多様な生活行動などがあります。被災者も然り。

過去の被災者支援を見てみると、国から、県や市町村、各関係機関に降りてくる様々な施策や支援は、縦のみのつながりで、横の関連がないことが現場でのミスマッチにつながるということが多くあったようです。全体を考えた、各省庁や部署の連携の取れた支援が重要だそうです。

また、地域防災計画には、だいたいどの自治体にも以下の文言が入っているようです。「自治体は、要援護者の特性に応じ、情報内容を工夫するなど情報伝達の手段について配慮する」

外国人などに日頃から避難場所についての周知をしたり、災害時にきちんと理解できる情報を提供することは、すでに文章化されているんですね。

さて、支援センター等の設置をするに当たって注意すべきことは、各地域の特性に応じた施策を講じるということだそう。ステレオタイプな見方をしていたら、ステレオタイプな施策しか生まれません。「外国人」と一言で言っても、言葉、文化、食事、衣服、音楽など実に多種多様。特定の人がだけ恩恵を受けるような多文化共生事業はありえないのです。

さらに、外国人が多いから多文化共生事業をするのではない、ということ。いるからする。数字の上から見て、ほとんどの自治体の外国人在住数は300人未満。少ないから必要ないというのではないということです。

鹿児島県・鹿児島市ともに在外国人の構成で際立った特徴があるので、それらを考慮し、地域に応じた事業を展開する必要があります。

では、地域でいかに多文化共生していくか。まず、「外国人」「日本人」というカテゴリー分けは必要ないようです。地域づくりはピンポイントで底上げするのではなく、地域全体で取り組むことが重要。多様な主体が多様に活動して暮らす社会をめざす必要があるそうです。外国人もその一部という位置づけです。大切なことは、違いを認め合い、理解すること。そして、援助の手が必要な問題は、地域構成員すべての問題であると認識すること。誰もが参画し、だれもが地域を支えるパートナーだと自覚すること。

まず、違いを認めることから始めましょうか。

【Public Facility in Kagoshima】

KAGOSHIMA CULTURE CRAFT VILLAGE (かごしま文化工芸村)

Kagoshima Culture Craft Village is located on a western hill of Kagoshima Ryutsu Danchi. It is near Kagoshima Jitsugyo High School. It is a quiet place, but there is a regular bus from Kagoshima Chuo Station to this place. It takes about 15 minutes via Kagoshima Ryutsu Danchi from Kagoshima IC by car. There is a Pottery Atelier for making potteries, a Woodcraft Atelier for making woodcrafts or bamboo crafts, and a Free Use Atelier for making handicrafts.

Making pottery is the most popular thing to do here. They have facilities, tools and clay, so you don't need to bring anything. The fee is attractive, too. The facility rental fee is 200 yen per adult and 100 yen per student (up to high school student). The clay costs 200 yen (1kg). It is all you need to pay. You can make up to three works.



This is the reception.

It is placed in the Pottery Atelier, the inner most building of the place.

When you sign in, you need to choose if you want to come again for glazing (in this case, you need to visit the place three times), or you simply leave everything else to the staff and come to pick up your completed pottery.

The fee is the same whichever you choose. You only need to pay for the facility rental fee and the clay.



They lend out the tool sets for free.

Some machines such as electric wheels and the machine on which you make the clay flat are also available to use. An instructor is stationed there every day, so if you want to ask something, she can give you some advice.

By working with clay, molding the shape....., and just getting into making the pottery, you can forget all about time.



These are the works which were made on this day here. There are a range of works from cute ones by children to works that outdo professionals.

The sheets under each work show the name of the creator, his/her address and his/her phone number. The drawings of the works are also on the paper, so that people in charge can tell which person made which works.

If you have chosen the glazing course, you need to come again, and you glaze the pottery with your favorite color. Phoning the reception to confirm if your works are biscuit-fired is recommended before you visit the place again.

Color samples of glaze.

If you have chosen to leave everything else, you just need to make a phone call to the reception to confirm if your works are completed before picking up the works at the Atelier.

The taste of food on your own pottery must be particularly good.



鹿児島県流通団地西側の山の上にかごしま文化工芸村はあります。鹿児島実業高校の向かい側あたり。緑に囲まれた静かな場所ですが、鹿児島中央駅から「文化工芸村行き」のバスも出ています。鹿児島ICからは、鹿児島流通団地経由で約15分。じっくりと腰を据えて作品作りを楽しめる環境のこの施設では、陶芸、木工、竹細工、手芸などを楽しめます。施設には、陶芸アトリエ、木工芸アトリエ、自由工房があり、目的に応じて使うことができます。

特に人気ののが陶芸。材料や道具がそろっているの、手ぶらで大丈夫。リーズナブルな価格も魅力です。施設使用料は、一般200円、小・中・高校生が100円。粘土代は1kgで200円程度。これだけで3つまでの作品を作れます。

受け付けは一番奥の陶芸アトリエにあります。受付の際、釉薬掛けまで自分でするか、それとも作った後は全部おまかせのコースを選択できます。どちらのコースを選んでも、費用は施設使用料と粘土代だけ。へらや竹串などの道具は無料で貸してもらえます。電動ろくろや、粘土を平にする機械もおいてあります。また、陶芸アトリエには指導員の方が常駐しているので、分からないことがあったり、困ったときはアドバイスももらえます。あととはたすら粘土をこねて、形を整えて・・・しばし時を忘れて作品作りに没頭。

この日制作された作品たちは、微笑ましい子どもの作品からプロはだしの作品まで。制作者と作品が分からなくならないよう、作品の下には制作者の名前や連絡先、作品の図などをかいた用紙が置かれています。

釉薬掛けを選んだ場合、素焼きが終わったあと再度来て自分の好きな色の釉薬をかけます。色見本があるのでイメージしやすい。おまかせコースを選んだ場合は、出来上がるころ電話で確認して作品を取りに行くだけです。自分で作った作品に料理をのせる、きっと味は格別でしょうね。

さて、陶芸は手ぶらでOKなのですが、木工アトリエは木材や竹などの材料持参が必要です。アトリエには電動工具など必要な道具が揃っています。アトリエの使用は毎日できますが、指導員がいるのは土曜、日曜、祝日だけなので、アドバイスが欲しい方はこれらの日を選んで行かれることをお勧めします。



Napoli Festival in Kagoshima ~Feel The Wind And Light~ (Kagoshima-no Kaze-to Hikari-to Napoli-sai / かごしまの風と光とナポリ祭)

Enjoy the murmur of The Kotsuki River and the wind across the tree-lined street. Napoli Avenue (Napoli-dori) will turn into a pedestrian square like Napoli.

This is an event where you can have tasty Italian food and wine, and enjoy Italian music under the beautiful sky with a nice breeze and sunshine.

On the festival day, the section from Kagoshima City Tourism Exchange Center (鹿児島市観光交流センター) to Korai-bashi Bridge (高麗橋) of the Kotsuki River side of Napoli Avenue will be turned into a pedestrian precinct.

A stone pizza oven will be brought to the site, and the world's best pizza chef, Mr. Makishima who won the international championship of pizzaiuolo in 2010, will make great pizza!

You also can't miss the beautiful Italian food made with Kagoshima's fresh ingredients by chefs who are members of Kagoshima Italian Restaurants!

Kagoshima city established a sister city relationship with Napoli city on the festival day (3rd of May) 55 years ago.

24 Divisions of The Solar Year; 24 Terms Used to Denote The Changing of The Seasons And Standard Days Signifying The Changing of The Seasons 二十四節気と雑節

We have an information web site, "KAGOSHIMA Visitors' GUIDE" for visitors and residents in Kagoshima.

Also, we have a Facebook page in which we write about events and cultural activities of Kagoshima and Japan.

24 terms used to denote the changing of the seasons and standard days signifying the changing of the seasons have been an integral part of people's lifestyle and even now Japanese people know the change of seasons through them.

We introduce the custom in English and Japanese on Facebook.

二十四節気と雑節は日本人の文化に深く根ざし、季節の移ろいの目安となってきました。

鹿児島国際化推進協議会のFacebookページ「KIC-update」ではこれらを日本語と英語で紹介しています。

May

八十八夜 (Hachijyu-hachiya)

May 2 (Sat)

This is the 88th day from the day of *Risshun* (New Year's Day according to the old calendar / the start day of Spring). People used to consider planting rice on this day. Some places still have a *Shinto* ritual to celebrate the start of planting.

The tea leaves picked on this day are said they are top-grade and if you drink the tea, you live long. Actually, the tea picking season is depending on the places because of the climate difference. For example, Chiran tea is picked around the middle of April to the end of April.

八十八夜は立秋から数えて八十八日目。かつては種まきの目安の日でした。現在でも農作業の開始を祝う神事が残る地域もあります。この日に摘んだお茶は上等なものとなされ、この日にお茶を飲むと長生きするともいわれています。実際には、産地の温暖差によって茶摘みの時期は異なります。例えば知覧の一番茶の茶摘みは4月中旬から家淳の間に行われます。

立夏 (Rikka)

March 6 (Wed)

Rikka is the 7th of 24 solar terms (節気) in the traditional East Asian calendars. The first day of summer according to the lunar calendar. The season of fresh green leaves, and the season you can feel the signs of summer.

立夏は二十四節気の第7。暦の上では、この日から立秋の前日までが夏。新緑の季節で、夏の気配を感じ始めるころです。

小満 (Shoman)

March 21 (Thu)

Shoman is the 8th of 24 solar terms (節気) in the traditional East Asian calendars. "Shoman" means that the weather becomes fine and everything starts to grow well. It is the term when everything grows gradually and reaches at the certain size, or the term when the wheat which were seeded in the fall bear and people feel relieved a little bit.

小満は24節気の第8。陽気が良くなって、万物が次第に長じて天地に満ち始める時季なので「小満」と呼ぶそうです。秋に蒔いた麦などの穂がつく頃で、ほっと一安心するころで、その土地の農作物の収穫が命に直結していたことを感じさせます。

June

芒種 (Boshu)

June 6 (Sat)

Boshu is the 9th of 24 solar terms (24節気) in the traditional East Asian calendars. It is the day of seeding for rice, wheat and other cereals. Now, the seeding is earlier than this.

芒種は24節気の第9。稲や麦など、穂が出る穀物の種を蒔く時季だそうです。現在ではこれよりも早い時期に蒔いているようです。

入梅 (Nyubai)

June 11 (Thu)

Nyubai is one of the specific days for seasons other than the twenty-four divisions of a year. It is the day marking the start of the rainy season. Plums (ume) turn yellow, and it tells you that the rainy season is coming. (It is different from the actual start of the rainy season.)

入梅は雑節の一つで、季節の移り変わりの目安。梅雨が始まる日とされますが、実際の入梅とは関係のない暦日。梅が黄色く色づいて梅雨の始まりを告げるころ。

夏至 (Geshi)

June 22 (Mon)

Geshi is the 10th of 24 solar terms (24節気) in the traditional East Asian calendar. Compared with the winter solstice, the daytime is 4 hours longer on this day. In Japan, the old calendar says that this day is the middle of summer. Though it is in the middle of the rainy season, it is also the busiest time of the year for farmers. In Kansai (関西), people eat octopus to invoke of spreading of the rice crops roots like octopus's tentacles.

夏至は24節気の第10。一年で最も昼が長い日です。冬至と比べると、約4時間も昼が長いようです。夏至には本格的な夏が始まるという意味がありますが、実際はまだ梅雨が続きますね。また、農繁期でもあります。関西では、稲がタコの八本の足のよう根を張ることを願ってタコを食べる習慣があるそうです。



July

半夏生 (Hangesho)

July 2nd (Thu)

Hangesho (半夏生) is one of the standard days signifying the changing of the seasons. It is the 11th day from the summer solstice. It is at the end of the rainy season that very humid and medicinal herbs which are called "hange (半夏) or *karasu-byakushi* (烏柄杓), crowdipper in English" come out. Farmers used to observe some customs: finish rice planting by this day, don't eat or seed wild plants such as bamboo and bracken, and put a lid on wells because they used to say that in this season the ground fills with poisonous air.

半夏生は雑節の一つ。半夏(烏柄杓)という薬草が生えるころだから、この名がついたとも、また、ハンゲショウ(カタシログサ)という草の葉が名前の通り半分白くなって化粧しているようになるころだからとも言われています。農家にとっては大事な節目の日で、この日までに農作業を終え、この日から5日間は休みとする地方もあるそうです。また、この日は天から毒気が降ると言われ、井戸に蓋をして毒気を防いだり、この日に採った野菜は食べてはいけないとされたりしたとか。

小暑 (Shosho)

July 7th (Tue)

Shosho (小暑) is the 11th of 24 solar terms in the traditional East Asian calendars. The end of the rainy season is near, and it gets really hot around this time. Cicadas start to chirp. From *Shoho* (小暑, July 7th) or *Taisho* (大暑, July 23rd) to around *Risshu* (立秋, August 8th) is *Shocyu* (暑中, mid-summer on the calendar) and it is the period people send *Shochu-mimai* (暑中見舞い, post cards or letters offering best wishes for the hot season) to their friends and relatives.

小暑は、二十四節気の第11。梅雨明けが近付き、暑さが本格的になるころで、蝉が鳴き始めるころとされています。小暑あるいは大暑から立秋までの間が暑中で、暑中見舞いはこの期間内に送ります。小暑の終わりに夏の土用に入るそうです。

大暑 (Taisho)

July 23rd (Thu)

Taisho (大暑) is the 12th of 24 solar terms in the traditional East Asian calendars. Around this period, the weather is fine everyday and the temperature is shooting up everyday. *Doyo* (土用 / the dog-days) starts a few days before *Taisho* (大暑) and it continues during the period (until the day before *Risshu* / 立秋, first day of Autumn, April 7th).

大暑は、二十四節気の第12。快晴が続く、気温が上がり続けるころ。夏の土用が大暑の数日前から始まり、大暑の間じゅう続きます。

Upcoming Events

(SAND FESTA in FUKIAGE) (FUKIAGE-HAMA SUNA-no SAITEN /

吹上浜砂の祭典)

Fukiage beach is one of Japan's 3 biggest dune systems. Here at the beach, the big annual sand festival will be held! About 100 sand sculptures will be made.

Many events such as Sound and Lights Fantasy Show (Oto-to Hikari-no Fantasy / 音と光のファンタジー) run from the 1st to the 6th of May (19:45~). Satsuma Kenshi Hayato Show, Bingo and many other fun events will be held.

TJ Garage Sale (May 23rd 9:00 ~ 16:00) in which about 200 stalls sell various things and Art Square (Art Hiroba / あーとひろば; hand-made works exhibition and sale) will also be held.

Contact the telephone number below for details.
Date: Golden Stage

May 1 (Fri) ~ May 6 (Wed) 9:00 ~ 21:00

Second Stage

May 7 (Thu) ~ May 31 (Sun) 9:00 ~ 17:00

Place: Sand Festival Site

(Sakyu-no Mori Kinpo / 砂丘の杜きんぽう),
near Green Dome Kinpo,

Takahashi, Kinpo town, Minami-satsuma city

Tickets for the Golden Stage (May 1 ~ May 6):

Adults 1,000 yen / Children 500 yen

* Advance tickets (Adult 700 yen / Child 400 yen) are available at convenience stores.

Tickets for the Second stage (May 7 ~ May 31)

Adults 500 yen / Children 500 yen

Car Park: 2,000 spaces

*There is a shuttle bus service from Kagoshima Chuo Station (70 minutes) only for the Golden Stage period.

Info: Executive (Fukiage-hama Suna-no Saiten Jikko linkai) 0993-53-2111

URL: <http://www.sand-minamisatsuma.jp/>

毎年人気の吹上浜砂の祭典。今年も音と光のファンタジー(5/1 ~ 5/6 19:45 ~)や、薩摩剣士隼人ショー、BINGO大会、制作体験ができるあーとひろばなど楽しいイベントがいっぱい。

200店舗ほどが出店するTJガレージセールも開催され、楽しみ倍増。

日時:

ゴールデンステージ 5月1日(金) ~ 5月6日(水)
9:00 ~ 21:00

セカンドステージ 5月7日(木) ~ 5月31日(日)
9:00 ~ 17:00

場所: 砂丘の杜きんぽう

(南さつま市金峰町高橋・グリーンダム金峰そば)

お問い合わせ: 吹上浜砂の祭典実行委員会

0993-53-2111

*チケット等、詳細は以下URLでご確認ください。

URL: <http://www.sand-minamisatsuma.jp/>



GOLDEN WEEK SENGAN-EN EVENTS

◆SHIMAZU FAMILY'S MAY FLAG (SHIMAZU-KE- GOGATSU NOBORI /

島津家 五月幟)

This is an exhibition of flags for the Boys' Festival. 10 meters long colorful flags wave in the salty sea breeze.

Date: April 26 (Sun) ~ May 6 (Wed)

Time: 8:30 ~ 17:30



◆EXPERIENCE OF WEARING SAMURAI ARMOR

(YOROI CHAKUYO TAIKEN / 鎧着用体験)

Take cool photos in samurai armor, helmet or jinbaori (陣羽織 / sleeveless campaign jacket worn over armor)!

Date: May 2 (Sat) ~ May 5 (Tue / National Holiday)

Fee: H.S.Students and above 200 yen

E.S.Students and J.H.S.Students 100 yen

◆NODA-GO SHIMAZU-DAIKO PERFORM- MANCE

(NODA-GO SHIMAZU-DAIKO ENSOU /

野田郷島津太鼓演奏)

Enjoy a powerful taiko drum performance looking at the spectacular view of Sakurajima and Kinko bay!

Date: May 3 (Sun)

Time: Performance will be held 3 times
between 10:30 and 15:00.

Place: Sengan-en (Iso garden), Kagoshima city

Info: Sengan-en / 099-247-1551

Entrance fee: Adult 1000 yen

Elementary & J.H.S.Student 500 yen

URL: <http://www.senganen.jp/>

SHIBUSHI BUDDHA FESTIVAL (SHIBUSHI OSHAKA MATSURI / 志布志お釈迦祭り)

This is a festival to celebrate Buddha's birth which is one of the biggest festivals in Kagoshima prefecture. A famous parade with brides in kimono riding horses decorated with bells, a brass band, dance troupes and others will parade from Shibushi station to Houman temple. People put hydrangea tea (amacha) on the Buddha statue, invoking good health.

Date: April 28 (Tue) ~ April 29 (Wed)

Time: Festival Eve: April 28th 17:00 ~ 21:00

Festival: April 29th 9:30 ~ 17:00

Place: Houman Temple and

Central town of Shibushi

6537 Cho, Shibushi town, Shibushi city,
Kagoshima prefecture

Admission fee: Free

Info: The executive (Oshaka-matsuri Jikko linkai Jimukyoku) 099-472-8028

URL: <http://sibusi-k-t.jp/news/news-3979/>

KANOYA ROSE FESTIVAL 2015 SPRING (KANOYA BARA-MATSURI 2015 HARU / かのやばら祭り2015春)

There are 50,000 rose trees in 80,000 square meters of park. Beautiful roses, cherry blossoms and poppies are planted.

During the period, many events will be held on the Saturdays, Sundays and the national holidays.

You can try Rose curry, rose soft ice cream and rose shochu at the restaurant in the garden.

Date: April 25 (Sat) ~ May 31 (Sun)

Time: 9:00 ~ 18:00

Place: Kanoya Rose Garden, Hamada town,
Kanoya city

Entrance fee: Adults 620 yen

E.S., J.H.S. & H.S. Student 110 yen

Info: Kanoya Rose Garden 0994-40-2170

URL: <http://www.baranomachi.jp/>

SPRING FANTASY NIGHT @ KANOYA ROSE GARDEN

(スプリングファンタジーナイト)

This is a popular annual festival.

You can enjoy roses with illumination, candles, a laser show and a fireworks display!

Some stage events will be held, too.

There are food booths.

Date: June 6 (Sat) & June 7 (Sun)

Time: 18:30 ~ 21:00

Place: Kanoya Rose Garden, Hamada town,
Kanoya city

Entrance fee: Adults 620 yen

E.S., J.H.S. & H.S. Student 110 yen

Info: Kanoya Rose Garden 0994-40-2170



VISITOR CENTER Update



© K. P. V. B

Update Newsletter is edited and issued by Visitor Center Update.

We also offer information on sightseeing, transport service, accommodation and restaurants, all on our web site, "KAGOSHIMA Visitors' GUIDE" and on facebook "KIC-update".

We'd like to hear from you. Mail us with your suggestions for future articles, and your comments about the content of Update. If you would like to write an article for Update, let us know.

Update NewsletterはVisitor Center Updateにより編集、発行されています。

ウェブサイト「KAGOSHIMA Visitors' GUIDE」とFacebookページ「KIC-update」でも観光、交通、食、文化など鹿児島県の情報を発信しています。

これらの情報についてのご意見や投稿を募集しています。下記までご連絡ください。

KIC-update.com

検索



Visitor Center Update / Editor: Shiho, Forbes

2F Hiratabashi Bldg.. 8-13 Hirano-cho, Kagoshima City, JAPAN 892-0848

Tel: 099-224-8011 / Fax: 099-224-8012

E-mail: info@kic-update.com

URL: <http://kic-update.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/kicupdate>